



## 特色選抜について

推薦入試の『一般入試より早めに合格が決まる』『学力検査がない』が、特色選抜では『合格発表は一般選抜と同日』『学力検査あり』に変わり、特色選抜をわざわざ出願する必要性を感じない方もいるのではないのでしょうか？前号でも紹介しましたが進路を担当して感じた利点をさらに紹介します。

- ① 合格の機会が特色選抜と一般選抜で2回に広がる。
- ② 特色選抜と一般選抜で異なる高校に出願できるので、異なる2校を受検できる。
- ③ 中学校での頑張りを一般選抜より高校入試の得点にすることができる。
- ④ 学力検査があるので、入学すぐの学習にスムーズにつながるができる。

下は令和4年3月に県教育員会からだされた特色選抜についての説明資料になります。

推薦入試から特色選抜へ 県立学校教育課

**「特色選抜」の目的**

志望学科への興味や関心及び適性を有する者を選抜するという、**これまでの推薦入試の趣旨を今後も継承しつつ、生徒が主体的な学びに向かう力の育成と中学校までの基礎学力の確かな定着を図り、特性や個性の一層の伸長につながる選抜とする。**

**現行の推薦入試の課題**

沖縄県高等学校入学者選抜制度のあり方について(報告書)より  
平成30年12月 沖縄県立高校入学者選抜制度改革に関する検討委員会

- ◆ (現行推薦入試制度は) **早期合格の手段としての傾向が強く、本来の趣旨が活かされていないとの懸念**
- ◆ **推薦合格内定者の一部に、その後の学習意欲の低下が見られ、一般入試に向けた学習環境に影響を及ぼすこともあり、義務教育段階の学習内容の確かな定着に課題**
- ◆ **各中学校によって推薦基準が異なることによる不公平感の指摘**

**「特色選抜」の基本方針**

- ①生徒が自ら出願できる** NEW
  - ・ 学校推薦ではなく、生徒本人による出願とすることで、意欲的な学習の態度や主体的な進路決定を促す。
- ②生徒の特性や個性を伸ばす** UP
  - ・ 受検生の志望校を決定するための資料として、各学校・学科の特色をより明確に示すための「育成したい資質・能力」や「目指す生徒像」を作成する。
- ③学力検査を全員受検する** NEW
  - ・ 義務教育段階の学習内容の確かな定着を図る。
- ④受検機会をこれまでどおり確保する**
  - ・ 現行では推薦入試と一般入試で最大2校へ出願する機会があり、受検機会を維持する。
- ※ICT活用を推進する** NEW
  - ・ 出願システムや採点業務の効率化、複雑化する処理データの一元化等が必要となる。

## 【中学校での頑張りをより評価するとは】

一般選抜での合否判定は、学力検査、内申点、面接となっており、中学校の頑張りは内申点で評価しています。この内申点は調査書より高校側が読み取って点数化しています(調査書は次号で紹介)。

一方、特色選抜ではそこに実績(スポーツや文化活動、資格取得)を得点として加えることができます。ただし得点は高校によって大きく変わります。また、向陽高校や南風原高校のように学科によって配点が変わらない高校もあれば、那覇西高校のように学科の特性によって差をつける高校もあります。是非自身の希望する高校のHPを調べましょう。

高校名	学科	実績の満点の得点	備考
知念	普通科	280	もっとも高い実績1件
向陽	全学科共通	35	もっとも高い実績1件
南風原	全学科共通	50	もっとも高い実績1件
那覇西	普通科	200	もっとも高い実績1件
	国際人文科	180	1件または2件 ただし英語系に限る
	体育科	150	2件、ただし スポーツ系に限る。実技あり

\*現在、昨年度のものかHPに記載されており、今年度のは10月末までには掲載されます。